

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871000733		
法人名	医療法人 光潤会		
事業所名	グループホーム ゆうらく ユニット名(椿)		
所在地	〒304-0002 茨城県下妻市江 2443番地1		
自己評価作成日	令和 3 年 10 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 3 年 12 月 22 日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

絶えず笑顔で利用者の一人ひとりの話を良く聞き、束縛せず、その人らしい生活が出来るように心掛けています。関わる機会を多くし、常に側に居てくれるという安心感が得られるように努力しています。毎日活気に満ちた笑顔の絶えない生活を過ごせるよう、職員全員で取り組んで行きたいと思っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kihon=true&JigyosyoCd=0871000303-00&ServiceCd=320](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871000303-00&ServiceCd=320)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 いばらき社会福祉サポート		
所在地	水戸市大工町1-2-3 トモスみとビル4階		
訪問調査日	令和3年11月8日		

母体となる病院や施設が隣接しており、利用者の健康管理や避難訓練等も協力体制が整っている。事業所では、利用者がその人らしく暮らせるように日々ケアに取り組んでおり、利用者と家族等の手紙の支援や入浴も自宅では夕方入浴しているのを午後3時半頃より行いできるだけ自宅と同じように生活できるようにしている。その他、季節の歌も利用者と一緒に歌ってお風呂や日常でも利用者と一緒に歌ったり、作品も一緒に作って掲示する等事業所内が明るく清潔に保たれている。自分では、利用者自身でできるように洗濯物も一人ずつ、洗濯物を挟むものを用意して干してもらったり、調理もできることは参加してもらおう等無理なく過ごせるよう工夫している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果【椿】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所や各ユニットに理念を掲示し、毎朝のミーティングの時に全員で唱和しています。理念に基づきユニットでの目標を立てて取り組んでいます。	年1回法令遵守の研修と一緒に理念の意義を確認している。毎年ユニットごとに目標を立てており、利用者本人のニーズを取り入れ「その人らしさ」を大切に汲み取れるよう個人記録を工夫している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩などで気軽に声かけあったり、地元の夏祭りにも参加していたが、コロナウィルス流行により、ほとんどなくなった。終息したら再開していきたい。	コロナ禍前は各種ボランティアの受け入れや民生委員の見学会、中高生の職場体験等の受け入れなどを行っていた。地域の夏祭りに参加し、お神輿やお囃子を見学していた。現在は散歩時に挨拶を交わして交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生の職業体験や民生委員の見学会などを受け入れて、認知症について理解して頂けるよう努力していましたが、コロナウィルス感染症により、現在はなし。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間予定を立てて計画的に開催しています。多くの家族に参加いただき、昼食会や入居者参加による会議を行ない、様々な意見をもらいサービス向上に活かしているが、現在は、年間予定は立てて計画的に開催しているが、コロナウィルス感染予防対策にて、市職員と事業所職員での実施となっています。	コロナ禍となり行政と事業所のみで市役所の会議室で運営推進会議を行っている。事前に委員に資料を送付し、会議後に内容をまとめ再送付している。委員からの情報と提案で外出支援する計画を立てている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政主催の集まりには、積極的に参加してグループホームの立場から意見交換しています。分からないことは、担当者に聞くようにしています。	市主催の地域密着型サービス連絡協議会等積極的に参加して意見を出したり、情報交換等を行っている。社会福祉協議会や地域包括支援センターからも入所相談等があり協力体制ができている。事故報告の相談等もしている。事業所で迷ったことは、すぐに相談できる関係であり、書面やFAXでも情報提供がある。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、開設当初から身体拘束は有りません。個々のケースで行動制限しないケアを話し合っています。8月に施設内研修実施。	「身体拘束等適正化のための指針」が作成されており、3か月に1回の委員会が開催されている。「身体拘束ゼロへの手引き」を各ユニットに置き、全職員が把握している。また、研修資料は職員が確認印を押印することで周知している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	不適切なケアから虐待の始まりと考え、適切なケアを行っていくようにスタッフ会議で話し合っています。職員がストレスを溜めないような関係づくりを続けています。8月に施設内研修実施。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当者は居ませんが、必要な時間に活用出来るようパンフレットを取り寄せて、説明出来るように準備してあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際には、ゆっくり説明できる時間を取っていただき、丁寧に分かり易く説明して同意を頂いています。入居してから分からないことは、いつでも聞いてくださいと声を掛けるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満などを表に出せるような環境作りを心掛けています。利用者への言葉かけや、表情を見ながら意志確認しています。苦情受付窓口を契約時に文章で説明し気軽に言うて頂けるように働きかけています。又、面会時には、必ず家族に声かけを行い、心配な事は無いかと聞くようにしています。	家族等には支払いや面会で来訪した際に利用者の様子を伝えるとともに意見や要望を聞くようにしている。来訪しない家族等には電話で聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、スタッフ会議を行い意見や提案を聞き、対応することで職員より多く話せる風通しのよい職場になるよう心掛けています。	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、職員会議時に話を聞いている。物品購入についての意見が多い。管理者が判断し本部に依頼している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力、具体的な実践、勤務状況を把握し、処遇へ反映することで向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めています。離職率は低く、開設当初から勤務している方も多くいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に応じて外部研修を推進しています。研修終了後は、朝のミーティングで発表して全体に反映しています。ホーム内研修も2ヶ月に1回行ない、今年度からウェブでの研修にして、より充実した研修に考えています。ほとんどの職員が介護福祉士を取得しています。現在、ケアマネジャー取得に向けて勉強している方も数名います。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、相互いの交流を図り、良いところは取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、ご本人のニーズを聞き、取り入れるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接で、ご家族のニーズを聞き、取り入れるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際、当ホームでは、対応困難なケースは、きちんと説明し、理解を頂いた上で、どのようなサービスが良いか相談にのり、他のサービスを説明しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として生活の知恵(古くからの習わし事や、家庭菜園の種まき、植え方、収穫、料理方法など)を日常生活の会話の中で教えて頂いたり、一緒に作ったりしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と一緒に、悩み、考えながら、利用者にとって一番良い方法を考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を頂き外泊時に近所へ連れて行ってもらい、馴染みの方との関係を支援しています。友人などは面会にいつでも来て頂けるよう伝えてありましたが、現在は、コロナ感染予防のため中止しています。周囲の状況をみて再開していきたい。	入所時の生活歴や家族等の話やフェイスシート、日々の関わりの中から把握している。職員は個人記録(支援経過表)に年代別に記載して共有している。また新たに分かったことは追記し申し送り簿にも記入することで、職員間で共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間は、職員と共に時間を共有しています。利用者同士で会話をしています。声が小さい利用者にはスタッフが間に入って会話していましたが、現在はアクリル板が有る事で、会話は少なくなりがちになっているので、職員が間に入りマスクをしての交流を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、困った事や相談したい事があった時は、いつでも来て頂けるように伝えてあります。退所後も家族が来ることもあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを立てる際は、本人、家族のニーズを聞いて取り入れています。日々の会話の中でも利用者本位に対応する事を心がけ、希望を実現出来るようにしています。日常のさり気ない会話の中から、各利用者の思いを知り、ケアに反映しています。	本人や家族に意向確認をしている。利用者と一緒に過ごす時間をもうけて利用者が発した言葉はそのまま個人記録に残している。表出困難な利用者は、態度や表情から汲み取り職員間でも相談している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は、情報収集を十分に、在宅での趣味、経験を活かして、本人の出来ることを把握し活躍の場を作り、充実した暮らしが出来る様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を申し送り把握したり、コミュニケーションを図りながら各利用者が役割を持つ中で、必要とされている事での満足感や充実感が感じられるよう、又、理念の実践に向けて取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、本人、家族の意向を確認し、スタッフ全員でサービス担当者会議を実施して介護計画を作成しています。	毎日「ケアプラン実施表」で目標達成の経緯を記録し、月1回のサービス担当者会議の中で職員で話し合いを行っている。モニタリングも毎月行い利用者の状況や更新時等必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の経過記録表と、ケアプラン実施表に記録することで、ケアプランに基づいたサービスを提供しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題が発生した時には、併設の専門職に相談し、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ前は、地域の夏祭りや、お神輿、菊や紫陽花見学など行っていたが、制限されているため、ホーム内で工夫して行い、楽しんでもらっています。終息したら再開していきます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の平間病院や、掛かりつけの眼科、歯科医院を、ご本人、ご家族の希望にて受診しています。	協力医療機関の医師による訪問診療が月2回ある。隣接しているので必要時に受診に行っている。眼科や歯科についてはこれまでのかかりつけ医へ家族等が付き添って行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のちょっとした変化に目を配り、少しの事でも看護師に報告することで早期発見が出来るようにしています。管理者が看護師であるため、日常の健康管理を掛かりつけ医と連携を取りながら、24時間体制で支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は毎日洗濯物を持参して声かけていたが、現在は面会制限により、洗濯物の受け渡しの時に情報交換して、不安なく早期に退院出来る様、支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、看取りに関して説明し、同意書を頂いています。さらに重度化した場合は、再度家族に説明をして今後のことを相談し確認するようにしています。	看取りのマニュアルや同意書はあるが重度化に関するものを用意するまでには至っていない。職員は年1回内部研修を行っている。看取りに関しては状況の変化に応じた繰り返しの話し合いと、段階的な合意を行なっている。	重度化と看取りを区別して説明できるように、重度化指針、同意書、マニュアルの整備を行うことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が、普通救命講習を修了しています。定期的な施設内研修にて再確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		夜間や水害を想定した避難訓練を行っている。訓練後は反省会を行っている。避難場所も具体的に想定したり、水道の点検等も行っている。備蓄品は併設の施設に保管してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時や入浴時は、不安や羞恥心への配慮をしています。特に一人一人にあった声かけをするよう心掛けています。	管理者と職員は利用者の意思を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしている。個人情報や鍵のかかる書棚で管理している。守秘義務や人権尊重に関して、WEB研修を年1回実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞き入れ、行事計画に取り組む事で、楽しんで頂いています。各行事などの会議に利用者に参加してもらい意見をもらっています。出前外食ではメニューを見て決めてもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先すること無く、一人一人のペースを大切にしています。理念に基づいて入居者中心で行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事など特別な時は、化粧やお洒落を楽しんでいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けなどは、各自出来ることを分担しながら行っています。家庭菜園での収穫時に料理を作っています。習わし事の時に作る料理(すみつかれ、団子、饅頭)など教えてもらい一緒に作ります。	同一法人施設の管理栄養士が献立作成をしている。利用者の苦手な物は代替品にて対応している。郷土料理を利用者と一緒に作ったり、出前などをもって食事を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力を得て献立を作っています。摂取量は毎食チェック記録をしています。食前食後や10時と3時は飲み物の提供をしています。嚥下状態に応じて食事形態なども工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っており、一人で出来ない方には、声掛けや介助をしています。義歯の管理は困難な方は職員が行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して、尿意便意が分からない方、行ったことを忘れてしまう方には、個々で誘導しています。尿量測定をして一人一人の尿量に応じた交換時間やオムツを選び、尿モレ汚染による不快感が無いようにしています。	一人ひとりの尿量測定を行い交換時間やオムツの種類を選んで失禁しても不快感が軽減できるようにしているほか2時間おきの声掛けを行っている事で失禁が少なくなり、尿取りパッドを交換する頻度が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分補給、バランスの良い食事を勧め、腹部マッサージや腹圧がきちんとかけられるように指導しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の入浴を行っています。拒否が有る方は、気持ちが落ち着いてからや、動きに合わせたタイミングで入浴しています。「ゆず湯」「菖蒲湯」「花湯」などで季節感や香りや視覚などで入浴を楽しんでいます。日替わりで入浴剤を使用することで、リラックスが出来て喜んでいます。便失禁があった場合は、その都度入浴しています。	入浴は基本週3回、利用者の意向に合わせていつでも入れるよう支援している。入浴剤や季節の湯を提供することで入浴が楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく体を動かし、夜間はしっかり眠れるように生活パターンを作っています。不眠時は、話し相手になったり、一緒にお茶を飲むなどして対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の薬について、効能書が見やすくファイルされています。薬は職員室に保管し、その都度、手渡しして確実に服用したか確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自が出来る役割を見出し、コミュニケーションを図りながら役割や活躍の場を作っています。「ありがとう」の一言を忘れずに言う事での達成感や充実感が得られるようにしています。手作りでゲーム(文字合わせ、数字合わせ、すごろく)を作って、レクリエーションを工夫して、飽きないようになっています。季節に応じた塗り絵や装飾品を作ったりして楽しんでいます。コロナ感染症により外出が出来ないので、ホームの中で出来る手作りおやつ等、工夫して楽しんでもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症により、散歩や外出に制限があるため、ベランダに出て、季節感を味わったり景色を見たり楽しんでいます。	コロナ禍前は散歩や花見、祭りに出かけていたが、現在はベランダで庭や畑を眺めながら体操をしたり季節の歌を歌うなどして気分転換をしている。今後ドライブで紅葉狩りに行く予定である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の管理出来る方がいないため、家族や職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が出来ないので、不安になってしまう方には職員が電話してやりとりしているが、自分で電話をかけることが出来る方はいないです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの畳みスペースで季節の草花や家庭菜園が窓から見えるようになっているため、くつろぐ事が出来ます。室内は、花や動物の写真、季節の花を飾り、居心地良く過ごせるようにします。臭いにも気を配り換気を適切に行っています。	玄関には季節の花があり、居間兼食堂にも観葉植物があつて楽しむ事ができる。また、天窗からの陽光や適切な温度、湿度管理により快適な空間が作られている。廊下には手すりがあり安全に移動できるほか、長椅子も用意されておりいつでも休むことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中ほとんどの方がリビングで過ごしています。マスクを着用しての会話やテレビを観て楽しくしている様子が多く見られます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の大切な物(写真、本、置物など)を持ってきています。ホームで作成した物は、居室やリビングに掲示して大切にしています。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、整理筆筒等が備え付けられている。自宅で使っていた馴染みの物を持ち込んでもらえるように家族等に話している。畳のスペースがあり、利用者だけでなく家族も寛げるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広く、車椅子でも行き来が出来ます。手すりも設置してあり、安心して歩行が出来るように工夫してあります。館内でも物干しが設置されていて、いつでも自由に使える様になっています。		